

第7回 日能研

# 文学コンクール

## 優秀賞

【論説文】 電気について考える

高田中学校・一年  
小畑 慎太郎さん

作品に対する思い・感想

思いがけない受賞を知って、とても驚き、そしてうれしく  
思います。

最初は論説文ということで難しそうだと思いましたが、自  
分の日常生活の中で感じたこと、考えたことを素直に書いて  
みました。

今回の受賞をはじめに、これからもがんばりたいです。



電気について考える

小畑 慎太郎

午後二時二十九分、携帯電話の電力アラームの音が鳴った。僕の住む中部電力管内の電力使用率が九十パーセントになったことを知らせ、節電を呼びかけるものだ。今日も気温は三十度を超えている。休み明けで仕事も始まり、会社や工場などでの電力使用も増えたためだろうか。今年の夏は僕にとって、例年になく、電気の使い方について考える夏になった。

三月十一日の東日本大震災、その後の福島第一原発の事故によって、電力は不足し、計画停電まで実施された。計画停電によって、人々が大混乱する様子が報じられ、改めて電気の大切さを感じた。その後、浜岡原子力発電所も停止し、中部電力管内でも深刻な電力不足が心配されるというところで、僕の住む地域でも、自動車関連の工場は休日を変更したり、電車に乗っても照明や空調を抑えていた

りと、節電を身近に感じるようになった。家の中でも電気の使い方について考えるようになり、そして思ったことは、僕達の生活は電気によって便利になりすぎている。というところだった。一日の生活の中で一体、どれぐらいの電気製品を使うだろうか。部屋の中はエアコンや床暖房で年中快適に保て、台所では電子レンジに炊飯器、電気ポットなどが調理を便利にする。IHヒーターは安全だし、大きな冷蔵庫にはたくさんの食品を保存できる。食器洗浄機があれば後片付けも簡単だ。居間には大画面の液晶テレビにパソコン、空気清浄機。洗濯乾燥機で雨の日の洗濯も困らない。家の中だけでも数えればキリがない。これらのものは、僕にとってはあるのが当たり前で普通に使っているものだけれど、母や祖母に聞くと、十年、二十年前にはなかった物もたくさんあるのだそうだ。「大変だったんだね」と言う、「その頃はそれが普通だったのよ」と祖母は笑った。家の外に出てもそうだ。コ

ンビニはあちらこちらにあって、二十四時間営業している。ショッピングセンターやレストランも夜遅くまで営業していて、中は過剰なほどに空調がきいている。これらは人が快適さと便利さを求めた結果で、このような電気の使い方は、この夏、大きく見直されている。一方、人の命や生活を守るために、どうしても必要な電気がある。たとえば信号。計画停電中にも信号の消えた交差点で事故があったが、突然、街中の信号が消えてしまったら、大混乱が起こり、事故は多発するだろう。交通機関もそうだ。様々なシステムをコンピュータで管理している現在、停電は様々な交通機関を停止させ、人や物の動きを止めてしまう。影響はどこまでも広がっていった。もう。病院もそうだ。僕の父は、産婦人科のクリニックをしている。赤ちゃんはいつ生まれるかわからないから、二十四時間病院は休まない。お母さんのおなかの中の赤ちゃんの元気な心音を伝えるモニターは電気がなければ

ば動かないし、生まれたばかりの赤ちゃんが入る保育器の中では、小さな赤ちゃんが眠っている。電気が止まってしまったらどうなってしまうんだろう。非常用の自家発電装置も、燃料がなくなってしまうえば動かない。もっと大きな病院だったらどうなるんだろう。どれほどたくさんさんの人の命が危険にさらされるのだろうか。いろいろ考えて、僕は電気には、本当に必要な電気と、豊かさのための電気があると思っただ。豊かさのためにたくさんさんの電気を使っていると、電力が不足し、結果的に本当に必要な電気までストップさせてしまう。みんなが少しずつ不便さや不自由さをがまんして節電すれば、本当に必要な電気も止めずにすむのだと思う。

夏休みの間、僕も家のエアコンを掃除したり、設定温度を上げたり、使っていない照明を消したり、自分の出来る事から節電に取り組んでみた。ある日の夜、僕と母は家の明か

りを消して屋上に出た。昼はまだまだ暑いけれど、夜の風はいつの間にか涼しくなっていて、少し前まで、うるさいほど鳴いていたセミの声は静かな虫の声に変わっていた。エアコンの効いた家の中にいたらわからないことだし、テレビの音や音楽があつたら、聞こえない音だった。遠くに花火が上がるのが見えた。花火が上がる、その横には二十四時間消えないコンピナートの明かりや、派手な電飾の看板が見える。こんなに街に明かりがあふれていなかった頃、花火はもつと明るく、きれいに見えただろうか。電気を大量に使って、コンピナートでは様々な物が生産され、経済を展览展示してきたのだろう。そして人の生活はどんどん便利に、豊かになった。その一方で、便利すぎる生活の中でなくしてしまったものもあるのかもしれない。そんなことを考えながら家に入った。暗い部屋の中にと、だんだん落ち着かなくなってくる。明かりをつけるとホッとした。明かりは人を安心させる。

電気の使い方を考えることは大切だ。この夏は幸い停電などの大変なことは起こらなかったけれど、これで安心してしまっただけはないと思う。今回は震災と原子力発電所が始まりだったけれど、その後、集中豪雨によって水力発電所も被害を受けて停止してしまった。世界情勢が変化すれば、火力発電に必要な燃料の確保が難しくなることもありえるだろう。いつ、何が起こるかは予測できない。僕らは、電気がいくらでも使えるものではないことを自覚し、本当に必要な電気を安全に使えるようにするために、自分達の生活を見直していかなければいけないと思った。